

平成二十三年度事業報告

1、教化研究会議

【一】第四十四回中央教化研究会議

期 日 平成二十三年九月七日（水）・八日（木）

会 場 日蓮宗務院

参加人数 百三十名

資料展示 教区教研や教化センターが作成・発行した教化資料・発行物の展示を実施。

テーマ

復興の教化学としての宮澤賢治―「イーハト

ヴ」の実現に向けて

開催趣旨（開催要綱原文のまま）

宮澤賢治は、明治二十九年（一八九六）岩手県に生まれました。その年は、三陸大地震・大津波が起こつた年でした。亡くなつたのは、昭和八年（一九三三）、やはり、三陸を大地震・大津波が襲つた年です。

こうした災害について、賢治自身はほとんど言及していないようです。しかし、今般の東日本大震災からの復興に向けて、被災者のみならず、私たち全てを励まし、勇気づけるものとして、賢治のことばが、そこかしこで用いられ、言わば象徴的な役割を果たしつつあるのは、単に賢治が岩手県の出身であつただけではない筈です。

大正三年（一九一四）に、賢治は法華経と出会いました。爾来百年を経過しようとして、ようやく、賢治の仏教思想、法華経受容が如何なるものであつたのが、広く一般に理解されつつあります。

そこに見られる、例えば、社会参加への姿勢や、或いは、超宗派性といったような特色は、まさに震災後一層顕著になつている、現代の伝統仏教教団が示しているすがたを先取りしているとも言え

るかもしれません。

本年、宗門運動「立正安国・お題目結縁運動」は、第二期に入りました。問われているのは、私たち日蓮宗僧侶の社会活動への取り組み方です。

教化の基は信仰であり、信仰の基となるのは、法華経と出会った時の、感動、感激です。これなくして、教学も教化ありません。熱心な門徒の家に生まれた賢治が、法華経に触れ、目覚めた、その感動を、私たちも共有し、明日の教化につなげて行きたいものです。

本年の中央教研では、現宗研所長三原正資による、今般、賢治の郷里を調査した報告を兼ねた『イーハトヴ』と宮澤賢治』と題する基調報告に続き、宗教学者で、最新の宮澤賢治事典である『宮澤賢治イーハトヴ学事典』の編集にも携わられた正木晃氏に「宮澤賢治の仏教思想と復興の化学」と題した基調講演をして頂いた上で、宮澤賢治と復興（仏教復興と震災復興）との関わりを中心とした五分科会に分かれ多角的な観点からの

問題提起と討議を行い、如何にして二つの復興への道筋を付けて行くのか、私たちに何が出来るかについて、考えてみたいと思います。

更に、宮澤賢治の弟清六氏の孫であり、「雨二モマケズ」手帳を復刻するなど、宮澤賢治にまつわるさまざまな活動に取り組まれている（株）林風舎代表取締役の宮澤和樹氏に、「宮澤賢治の銀河世界」と題する記念講演をして頂き、結びとします。

一、開催方式

①基調報告『イーハトヴ』と宮澤賢治』

三原正資（日蓮宗現代宗教学研究所長）

②基調講演「宮澤賢治の仏教思想と復興の化学」正木 晃（宗教学者）

③基調報告、基調講演を問題提起として、テーマに関連した左記の五分科会を開催します。

I 現代教化学部門「I」宮澤賢治の教化学

（宮澤賢治を仏教復興の教化にどう用いるか）

Ⅱ 現代教化学部門「2」雨ニモマケズとぜん

たい幸福―宮澤賢治と復興の教化学（震災

復興に於ける宮澤賢治の用いられ方の事例

研究を通じて）

日 区（教化センター）に委託してください。

第一日目 九月七日（水）

受 付 一〇時三〇分

Ⅲ 現代教化学部門「3」環境と復興の教化学

（原発問題と教化学）

Ⅳ 現代教団部門「1」てらこや活動と羅須地

人協会（社会活動への取り組み）

V 現代教団部門「2」救援の思想と復興の現

場（被災者、支援者の実体験を通じて）

④ 全体会議で五分科会の報告を聞き、テーマ「復

興の教化学としての宮澤賢治―『イーハトヴ』

の実現に向けて」にまとめます。

⑤ 記念講演「宮澤賢治の銀河世界」宮澤和樹氏

（林風舎代表取締役）

⑥ 各教区教研会議報告書や討議資料、管区並びに

教化センターで作成された教箋等の教化資料を

展示し、教化情報のコーナーで宣伝します。各

寺院教会結社や個人有志で発行のものは、各管

第二日目 九月八日（木）

朝 食

移 動 八時二〇分

分 科 会 九時〇〇分～一一時三〇分

質疑応答 一五時〇〇分～一五時二〇分

移 動 一五時二〇分～一五時三五分

分 科 会 一五時三五分～一七時〇〇分

移 動 一七時〇〇分

夕 食 各自食事券にて

移動・昼食 一 一時三〇分～二 一時一〇分

全体会議 一 二 一時一〇分～三 一時一〇分

記念講演 一 三 一時一〇分～四 一時四〇分

質疑応答 一 四 一時四〇分～一 四 一時五〇分

閉会式 一 四 一時五〇分～一 五 一時〇〇分

解散 一 五 一時〇〇分

参加者

教区教研運営委員、或いは内容に関心がある教師。

【2】教区・管区教化研究会議

十教区・一管区にて開催。日時・テーマは次の通り。

●第三十五回中四国教区教化研究会議

平成二十三年六月二十九日～三十日

岡山県 アークホテル岡山にて

テーマ「無縁社会」から「仏縁社会」の実現に向けて」

基調講演「無縁社会と仏縁社会」

岡田真美子氏（兵庫県立大教授・岡山

県妙興寺寺庭婦人）

3分散会

全体会議

●第三十一回九州教区教化研究会議

平成二十三年六月二十九日～三十日

長崎県 ホテルニュー長崎にて

テーマ「災害時の寺院と教師」～その行動と役割～

基調講演「震災地域の現状と今後の展開」

西山文生師（岩手県智恩寺修徒）

特別報告「震災に対する宗門の取り組みについて」

駒野教源師（日蓮宗総務局長・災害対

策副本部長・東京都常在寺住職）

3分散会

全体会議

●第三十五回北海道教区教化研究会議

平成二十三年八月二四日

北海道西部 アパホテル&リゾート札幌にて

テーマ「未信徒へのアプローチ」～今あらためて

葬儀のあり方を問い直す」

全体会議

基調講演Ⅰ「亡き人を送る、亡き人を生かす―日

●第四十一回近畿教区教化研究会議

蓮聖人・法華経の教えを手がかりに

平成二十三年十月七日

―

和歌山県 和歌山ビッグ愛にて

間宮啓壬師（富山県立像寺住職・身

テーマ「なぜ本宗のお題目でなければならぬの

延山大学教授）

かゝ三離れなんてこわくない」

基調講演Ⅱ「現代における葬儀の意義と今後の展

基調講演「なぜ本宗のお題目でなければならぬの

望―日本型仏教の可能性」

のか」

正木晃氏（立正大学非常勤講師）

高岡完匡師（高知県妙應寺住職）

全体会議

5分散会「自分にできる第一歩」

●第十八回北関東教区教化研究会議

全体会議

平成二十三年九月二十九日

●第三十五回中部教区教化研究会議

群馬県 高崎ビューホテルにて

平成二十三年十月二十一日

テーマ「三離れからの原点回帰―法華経要文を通

三重県 四日市じばさん三重にて

じて―

テーマ「現代社会における寺院・僧侶の役割と大

基調講演「回向文に見る要文の解説」

災害 我々に何ができるか？」

望月海淑師（身延山大学名誉教授・山

基調講演「東日本大震災に際して」

梨県樋沢坊院首）

西山文生師（岩手県智恩寺修徒）

3分散会

第1分科会「東日本大震災に際して」

第2分科会「避難所寺院として」

第3分科会「ボランティアとして」

全体会議

●第二十八回北陸教区教化研究会議

平成二十三年十一月十七日

福井県北部 福井市妙長寺檀信徒会館「宝珠」にて

テーマ「現代葬儀事情を考える」

基調講演1「北陸における現代葬儀事情・福井を

中心に―福井新聞連載『親鸞なう』

の取材から―

宇野和宏氏（福井新聞社「親鸞な

う」担当）

基調講演2「北陸における現代葬儀事情・福井を

中心に―葬儀社の立場から―

大久保重雄氏（福井葬儀株式会社取

締役総括部長）

2分散会

全体会議

●第三十六回京浜教区教化研究会議

平成二十四年二月十七日

東京都南部 池上本門寺朗峰会館にて

テーマ「―貧困―お寺はセーフティーネットになり得るのか？」

基調講演「仏教、貧困・自殺に挑む」

磯村健太郎氏（朝日新聞社オピニオン

編集部記者）

第1分科会「女性の貧困と駆け込み寺」

戸澤宗充師（東京都一華結社教導・

「サンガ天城」庵主）

第2分科会「自死と貧困」

中下大樹師（真宗大谷派僧侶・「寺

ネット・サンガ」代表）

第3分科会「ホームレス支援」

吉水岳彦師（浄土宗僧侶・「ひとさ

じの会」代表）

第4分科会「生活貧困者の葬送支援」

平久江剛志師（浄土宗僧侶・葬送支

援ネットワーク共同代表)

パネルディスカッション

●第三十六回山静教区教化研究会議

平成二十四年二月二十四日

山梨県三部 身延山大学にて

テーマ「『安穩な社会づくり』のための僧侶の役

割」

基調講演「東日本大震災の記録」

谷川正明師(宮城県法音寺住職)

3分散会

全体会議

●第二十九回千葉教区教化研究会議

平成二十四年三月五日

千葉県南部 清澄寺研修会館にて

テーマ「く震災復興 仏教復興く」

基調講演「葬式仏教が果たす役割―震災との関連

から―」

小谷みどり氏(第一生命経済研究所主

任研究員)

基調講演「大震災から二十一世紀の宗教を考える

死生観+靈魂観+宗教者の資質」

正木晃氏(立正大学非常勤講師)

●東北教区教化研究会議

本年度休止

●第四回大阪市教化研究会議

十二月十六日

大阪府大阪市 大阪府大阪市社会福祉会館に於い

て

テーマ「宗教法人の公益性―日蓮宗寺院の存在価

値―」

講演「お寺は誰のためにある?―宗教法人の公益

性を問う」

長谷川正浩師(日蓮宗顧問弁護士・愛知県

蘇東教会担任)

全体会議

2、研究・調査活動

【1】左記の各プロジェクトチームにおいて、それぞれ

研究・調査を進めた。

●現代教化学部門

〔古河良啓・岩田親静・藤崎善隆・小瀬修達・野村佳正・高平妙心・松森孝雄・石伏叡齋・マコーミツク龍英・塩入幹丈・大乗文晴・齋藤宣裕各研究員、石川修道・灘上智生・町田順文・小林貫誠・西口玄修・タラビーニ勝亮・村瀬正光・馬島浄圭・有本智心・牟田口義隆・黒木源章・梅森寛誠・佐藤拓温各嘱託〕

- ① 四海帰妙のための教学論（本門の題目）
- ② 政治（国家）と宗教（含立正平和運動・憲法九条問題）

- ③ 環境問題（震災と原発）
- ④ 生命倫理（含再生医療・IPS細胞）
- ⑤ 自然科学と仏教
- ⑥ 国内宗教研究Ⅰ（創価学会・興門系教団）
- ⑦ 国内宗教研究Ⅱ（他教団研究・震災対応）
- ⑧ 海外宗教研究

●現代教団部門

〔坂輪宣政・小林康洋・河崎俊宏・中村龍央・鶏内

泰寛・延本妙泉・原一彰各研究員、山田孝行・馬渡竜彦・岩本泰寛・川名湛忍・石原顕正・松田英秀・柴田章延・成田東吾・鈴木大道・伊藤美妙・原顕彰各嘱託〕

- ① 社会変動（少子高齢化・人口減少）と宗教活動（含葬儀問題）

- ② 過疎地寺院
- ③ 寺院と危機管理（防災・震災）

- ④ 日蓮宗の寺庭婦人

- ⑤ 国内宗教研究Ⅲ（葬送儀礼の民俗的研究）
- ⑥ IT（中央教化センター機能・相互ウェブ会議・現宗研HP）

- ⑦ 人権問題

●日蓮宗近現代史（日蓮宗アーカイブズ）

〔坂輪宣政・高橋延定・工藤信人各研究員、柴田章延嘱託、田澤元泰顧問〕

●教研会議と教化センター

〔坂輪宣政・岩田親静・藤崎善隆・中村龍央・松森孝雄・原一彰各研究員、影山教俊顧問、灘上智

生・山田孝行・馬渡竜彦・西口玄修・石原顕正各
嘱託)

●研究例会

(坂輪宣政・古河良啓・岩田親静・藤崎善隆・小林
康洋・小瀬修達・河崎俊宏・野村佳正・中村龍
央・鶏内泰寛・高平妙心・松森孝雄・石伏叡齋・
延本妙泉・塩入幹丈・大乘文晴・齋藤宣裕・原一
彰各研究員)

●葬儀問題特別PT(含三離れ(葬儀離れ・墓離
れ・寺離れ))

(岩田親静・藤崎善隆・原一彰各研究員、灘上智
生・山田孝行・馬渡竜彦・柴田章延各嘱託)

●顧問会

(田澤元泰・影山教俊・星光喩・仲澤浩祐・望月哲
也・石川浩徳・伊藤如顕・新聞智照・中村潤一・
木村勝行各顧問)

【2】研究講座・教化学研究集会・研究懇談会を開催し
た。

●十一月九日、第十二回日蓮宗教化学研究発表大会

を宗務院に於いて開催した。

「日蓮宗のお題目の独自性をどう伝えるべきか」

塩入幹丈師(福岡県妙立寺住職・現宗研研究員)

「日蓮聖人小佐渡山脈越えの経路について」

小瀬修達師(新潟県妙法寺寄在・現宗研研究員)

「日蓮聖人の災害記録―平成二十三年三月十一日

東日本大震災起こる―」

三谷祥祁師(大阪府観世音寺住職)

「近世の改宗について」

坂輪宣政師(東京都妙圓寺修徒・現宗研研究員)

「震災現場における救済学」

黒木源章師(宮崎県妙源寺住職・現宗研嘱託)

「橋爪大三郎著『ふしぎなキリスト教』恐るるに

足らず」 森下龍浄師(長崎県日誠寺住職)

「ビルマ仏教のゆくえ」

馬島浄圭師(愛知県妙本寺住職・現宗研嘱託)

「私から見たアメリカ開教事情」

金井久美子氏(アメリカネバダ日蓮仏教観音寺

寺院婦人)

「服装の乱れは、心の乱れ（法服の乱れは、宗内の乱れ）」
遠藤了義師（千葉県大栄寺住職）

「社会が求める仏教について―サンフランシスコ禅センターを視察して―」

影山教俊師（千葉県釈迦寺住職・現宗研顧問）

「ヨーロッパにおける日蓮宗の開教事情について―イタリアを中心に―」

タラビーニ勝亮師（イタリア新開教地担当開教師・現宗研嘱託）

●平成二十四年二月七日、第二十二回法華経・日蓮聖人・日蓮教団論研究セミナーを宗務院で開催した。

テーマ「震災と祈り―立正安国とは何か」

講演「震災と立正安国①―日本佛教の立場から」

末木文美士氏（国際日本文化研究センター

教授）

「震災と立正安国②―佛教学の立場から」

伊藤瑞毅師（立正大学大学院文学研究科委

員長・日蓮宗講学職）

「震災と立正安国③―日蓮教学の立場から」

北川前肇師（立正大学仏教学部教授・日蓮宗講学職）

【3】研究例会

●研究員が各自のテーマに沿って研究・調査を行い、研究発表を行った。発表テーマと発表者は次の通り。

○「本宗寺院における過疎対策―寺院活性化に向けた一考察」
河崎俊宏師

○「『法華経』における二段階の成仏思想と日蓮聖人の成仏観について」
延本妙泉師

○「日蓮信仰と石原莞爾」
野村佳正師

○「教団教育制度PT報告」
岩田親静師

○「臓器移植をめぐる諸問題について」
藤崎善隆師

○「寺院における災害対策（ICT）を考える」
中村龍央師

○「国内宗教研究Ⅰ」プロジェクト中間報告」
小瀬修達師

○「娑婆即寂光土」この世を浄土に」 原一彰師

○「福島原発事故の問題と今後の展望について」

齋藤宣裕師

○「自然科学と仏教」

石伏齋齋師

○「『立正安国論』の一考察―日蓮聖人滅後における『立正安国論』奏進の継承―」 古河良啓師

○「宗門史の断片的の諸事の紹介」 坂輪宣政師

【4】現地調査

●五月十日、東京都立正大学大崎図書館に於いて

「宗報」電子化調査を行った。

●五月十八日～二十日、岩手県に於いて中央教研調査を行った。

●七月五日、東京都立正大学大崎図書館に於いて

「宗報」電子化調査を行った。

●十月十二日、東京都立第五福竜丸展示館に於いて東京南部教師研修会講演事前調査を行った。

●十月二十七日～二十八日、新潟県に於いて柏崎刈羽原子力発電所現地調査を行った。

●十二月九日、東京都東京大学近代日本法政史料七

ンターに於いて「宗報」電子化調査を行った。

●過疎地寺院対策に関する調査をPT担当者が各々の地元にて継続的に行った。

3、出版・資料収集

【1】「現代宗教研究」第四十六号を編集し、配付予定。

【2】教団史研究資料の一つとして、各種資料より「平成二十二年日蓮宗年表」を作成し、配布予定。

【3】「現代宗教研究」別冊として、『教化学研究2』を作成し、配付予定。

【4】新宗教関係資料を収集し、保管した。

【5】各種伝道教化に関する資料を収集し、保管した。

【6】伝道・教化・研究に必要な図書を購入了した。

【7】今年度購入・寄贈図書のコンピュータ管理のための蔵書整理とデータ作成を行った。

4、研究交流・会議

【1】四月二十四日、東京都文京区に於いて、「宗教者災害支援連絡会」が開催され、出席した。

【2】五月二十二日、東京都文京区に於いて、「宗教者災害支援連絡会」が開催され、出席した。

【3】五月二十六日、東京都港区に於いて、「全日本仏教会講演会」が開催され、出席した。

【4】六月四日、埼玉県入間郡淑徳大学に於いて、「日本近代仏教史研究会研究大会」が開催され、出席した。

【5】六月九日、宗務院に於いて、教区教研連絡会議を開催した。各教区教研の前年度運営委員代表と本年度運営委員代表、及び次年度運営委員代表が出席して、前年度の報告と本年度の計画を聞き、教研会議運営について話し合った。

【6】六月十日、宗務院に於いて、「教化センター連絡会議」を開催した。会議では、各センター発行の布教・教化・伝道資料の交換が行われるとともに、センター運営に関する問題点と各センター間の交流推進について話し合った。

【7】七月六日、京都府亀岡市大本教本部に於いて、「第十一回生命倫理研究部会」が開催され、出席した。

【8】八月二日、東京都千代田区に於いて、全日本仏教

会シンポジウム「葬儀は誰の為に行うのか?②―「お弔い」とは―」が開催され、出席した。

【9】九月十日～十一日、東京都文京区東洋大学に於いて、本化ネットワーク研究会主催「第七回夏期セミナー二〇一一」が開催され、出席した。

【10】十月十日、東京都中央区に於いて、全国青少年教化協議会主催、「震災と宗教を考えるシンポジウム二〇一一」が開催され、出席した。

【11】十月二十八日～二十九日、山梨県南巨摩郡身延山大学に於いて、「日蓮宗教学研究発表大会」が開催され、出席した。

【12】十月二十九日、東京都千代田区聖イグナチオ教会に於いて、日本カトリック司教協議会主催、「シンポジウム 宗教者の使命」が開催され、出席した。

【13】十一月二日、福井県吉田郡永平寺に於いて、「脱原発シンポジウム」が開催され、出席した。

【14】十一月七日、東京都渋谷区神社本庁に於いて、「第十回教団付置研究所懇話会・年次大会」が開催

催され、出席した。

- 【15】十一月十一日、東京都豊島区大正大学に於いて、「第五十三回天台宗教学大会」が開催され、出席した。

- 【16】十一月十二日、東京都文京区東洋大学に於いて、「第二回宗教と環境シンポジウム」が開催され、出席した。

- 【17】十一月十三日、東京都文京区に於いて、「宗教者災害支援連絡会」が開催され、出席した。

- 【18】十二月十一日、東京都港区神道大教大教院に於いて、「教派神道連合会公開講演会」が開催され、出席した。

- 【19】平成二十四年一月七日、神奈川県横浜市明治学院大学に於いて、「明治学院大学公開シンポジウム」が開催され、出席した。

- 【20】一月二十四日、宗務院に於いて、「勸学院研修会議」が開催され、出席した。

- 【21】一月二十八日～二十九日、東京都港区明治学院大学に於いて、「明治学院大学国際平和研究所国際

シンポジウム」が開催され、出席した。

- 【22】二月十一日、東京都豊島区大正大学に於いて、「財団法人国際宗教研究所・宗教者災害支援連絡会共同主催公開シンポジウム」が開催され、出席した。

- 【23】二月二十二日、京都府京都市西本願寺聞法会館に於いて、「教団付置研究所懇話会自死問題研究会」が開催され、出席した。

5、講演

- 【1】鳥取県管内教師研修会

平成二十三年八月二十五日 鳥取県
講演「現代葬儀事情と私たちの使命」

- 【2】東京都南部教師研修会
三原正資（現代宗教研究所長）

平成二十三年十一月二十四日 東京都南部
講演「『教化』私たちが伝え、導き、育てていか

なければならないこと」

- 【3】岡山県布教研修会
三原正資（現代宗教研究所長）

平成二十三年十一月二十八日 岡山県

講演「日本仏教の現状と宮沢賢治の生き方」

三原正資（現代宗教研究所長）

【4】 京都日蓮宗公開講座

平成二十四年一月二十一日 京都一部

法話「『雨ニモマケズ』の生き方」

三原正資（現代宗教研究所長）

【5】 池上本門寺現代仏教講座

①平成二十三年十一月八日

講演「原子力文明の終焉」

三原正資（現代宗教研究所長）

②平成二十四年一月十七日

講演「宮澤賢治と近代文明」

三原正資（現代宗教研究所長）

③平成二十四年三月十三日

講演「現代葬儀事情考①」

高佐宣長（現代宗教研究所主任）

【6】 千葉県東部檀信徒研修会

平成二十四年三月十一日

講演「苦しみを乗り越える―「ほんたうの幸福」

とは何か―」

三原正資（現代宗教研究所長）